東清水線新設工事事業 環境影響評価 補正評価書 補足資料(景観·風景)

2023年3月

東京電力パワーグリッド株式会社

### 1. まえがき

本資料は、2022年6月10日に公表した「東清水線新設工事事業 環境影響評価書」に対して、2022年8月8日に通知された山梨県環境影響評価条例第25条に基づく知事意見(大水保第1069号)のうち、景観・風景に係る意見の一部について、補正評価書に記載することが困難であったことから、補正評価書作成後に再検討を行ったものである。

補足した部分は「東清水線新設工事事業環境影響評価 補正評価書」(2022 年 10 月 7 日)の「第 8 章 環境影響評価の結果」のうち、「8.5.3(2) 環境保全措置の検討経緯」(8-237 ページ~8-243 ページ)であり、該当する知事意見は以下のとおりである。

## ○知事意見(抜粋)

# (景観, 風景)

(8) 天候や季節を考慮した環境影響評価の実施等

鉄塔等が景観に及ぼす影響について、より高い精度で再現したフォトモンタージュを用い、 天候や<u>季節の違いも考慮して予測・評価を行った上で保全措置を検討</u>し、十分な保全措置となっていることがわかるよう、補正評価書に記載すること。

注) 下線の部分が、本資料に記載した内容である。

### 2. 環境保全措置の検討経緯

環境保全措置が必要とされた各眺望地点について,<u>季節による違いも含めて</u>表 $-1\sim2$  及び図 $-1\sim3$  に示すとおり鉄塔の色彩(明度)の複数案を比較検討した。また,最も距離が近い中部横断自動車道 からの No. 37 の見え方については,表-3 及び図-4 に示すとおり,天候の違いも考慮して複数案を比較検討した。

これらの結果,各眺望地点の比較では,No. 36 及び No. 37 については,「N7」が最も影響が最小化された。No. 38 については,空を背景とする「森のオアシス」で,<u>夏季及び秋季ともに</u>「N7」が最も影響が最小化され,山を背景とする「八幡神社」で,<u>夏季は「N8」が</u>,秋季は「N4. 5」が最も影響が最小化された。眺望地点からの距離が近い「森のオアシス」への影響を重く捉えた場合,「N7」が最も良いと考えられた。

また、天候の違いによる比較においても、総合的な評価として「N7」が最も影響が最小化された。

	衣-	1 政治の	一色彩(明度)のこ	L #X 1 天 百、	1 (NO. 50, NO. 51,	NO. 50	ノ・ <u>友子</u>	
鉄塔 No.	眺望	見二肉件	N8 (標準)		N7		N4. 5	
(距離)	地点	距離		評価		評価		評価
No. 36	中部横 断自動	0.7km	標準的な外観	$\triangle$	N8 よりやや暗く なり, 背景の空	0	N8 より暗く,威 圧感がでる	×
No. 37	車道	0.4km			との輝度差が軽 減される			^
No. 38	森のオ アシス	0.5km	標準的な外観	Δ	N8 よりやや暗く なるが、大きな 差はない ただし、背景の 空が快晴の場合 は、N8 よりも輝 度差が軽減され る	0	N8 より暗く, 威 圧感がでる	×
	八幡神社	1.5km	標準的な外観であり、背景の山との輝度差が小さく、突出感が 軽減される	0	N8 よりも背景の 山との輝度差が やや大きくなる が,大きな差は ない	Δ	N8 よりも背景の 山との輝度差が 大きく, 突出感 がある	×

表-1 鉄塔の色彩 (明度) の比較検討 (No. 36, No. 37, No. 38): 夏季

凡例:○;背景との輝度差が最も小さく、影響が最小化されている。

△;背景との輝度差はそれほど大きくないが、最小化されていない。

×;背景との輝度差が大きく,威圧感や突出感がでる。

表-2 鉄塔の色彩 (明度) の比較検討 (No. 36, No. 37, No. 38): <u>秋季</u>

Art III.	n II -t-+		120 (ITT)(1)					
鉄塔 No.	眺望	距離	N8 (標準) N7		N4. 5			
(距離)	地点	此為田		評価		評価		評価
No. 36	中部横 断自動	0.7km	標準的な外観	Δ	N8 よりやや暗く なり, 背景の空	0	N8 より暗く,威 圧感がでる	×
No. 37	車道	0. 4km			との輝度差が軽 減される	O		
No. 38	森のオアシス	0.5km	標準的な外観	Δ	N8 よりやや暗く なるが,大きな 差はない ただし,背景の 空が快晴の場合 は,N8 よりも輝 度差が軽減され る	0	N8 より暗く, 威 圧感がでる	×
	八幡神社	1.5km	標準的な外観で あるが,背景の 山との輝度差が 大きく,突出感 がある	×	N8 よりも背景の 山との輝度差が 小さくなり, や や突出感が軽減 される	Δ	N8 よりも背景の 山との輝度差が 小さくなり,か なり突出感が軽 減される	0

凡例:○;背景との輝度差が最も小さく、影響が最小化されている。

△;背景との輝度差はそれほど大きくないが、最小化されていない。

×;背景との輝度差が大きく,威圧感や突出感がでる。

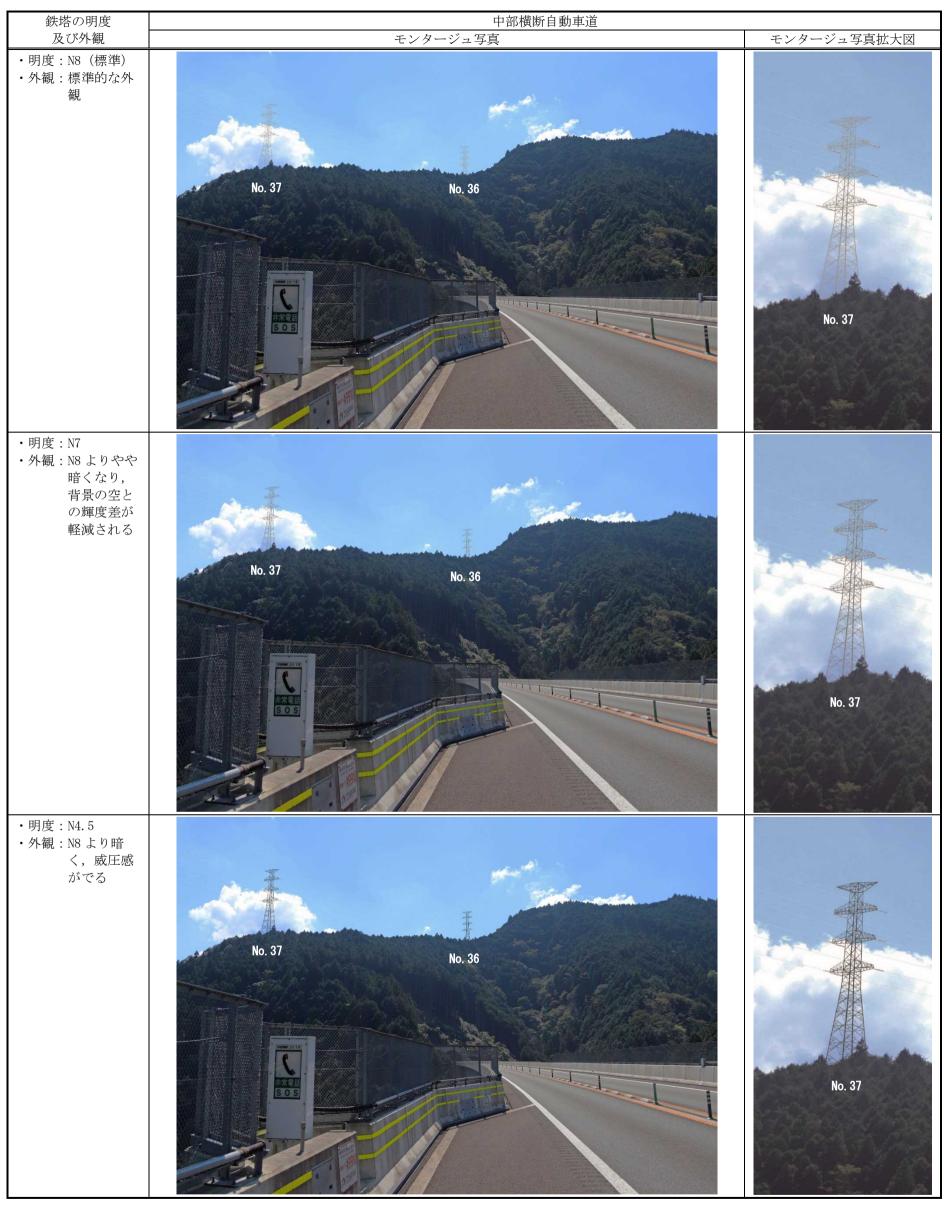
表-3 天候の違いによる比較検討 (No. 37:中部横断自動車道)

文 6 八队02E (10.6 0 11.4 11.6 11.4 11.6 11.4 11.6 11.4 11.6 11.4 11.6 11.4 11.6 11.4 11.6 11.6						
鉄塔の明度	晴天時		曇天時		雨天時または荒天時	
		評価		評価		評価
N8 (標準)	背景との輝度差が 少しある	Δ	背景との輝度差 が小さい	0	背景との輝度差 が少しある	Δ
N7	背景との輝度差が 小さい	0	背景との輝度差 が少しある	Δ	背景との輝度差 が小さい	0
N4. 5	背景との輝度差が 大きく,突出感が ある	×	背景との輝度差 が大きく, 突出感 がある	×	背景との輝度差 が大きく, 突出感 がある	×

凡例:○;背景との輝度差が最も小さく,影響が最小化されている。

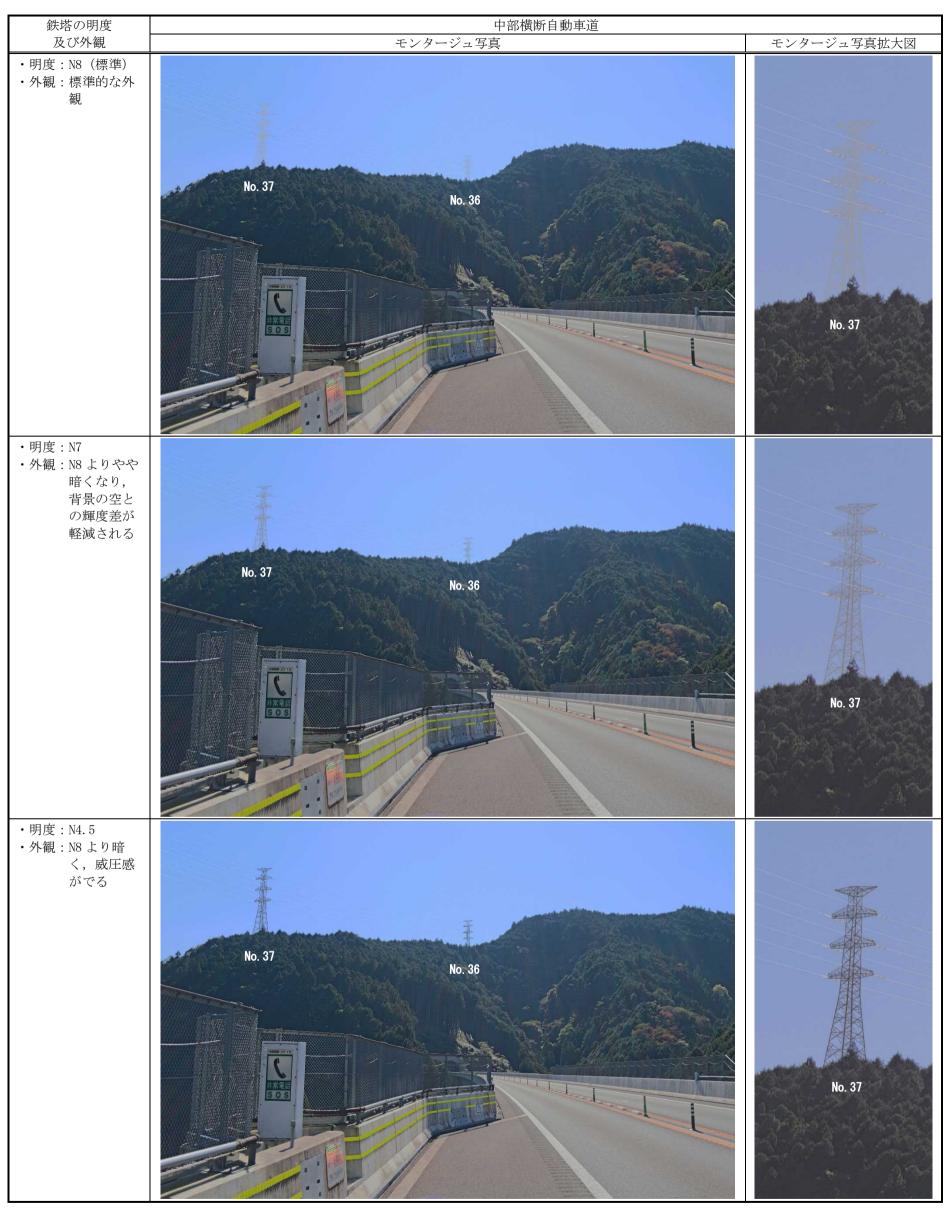
△;背景との輝度差はそれほど大きくないが、最小化されていない。

×;背景との輝度差が大きく,威圧感や突出感がでる。



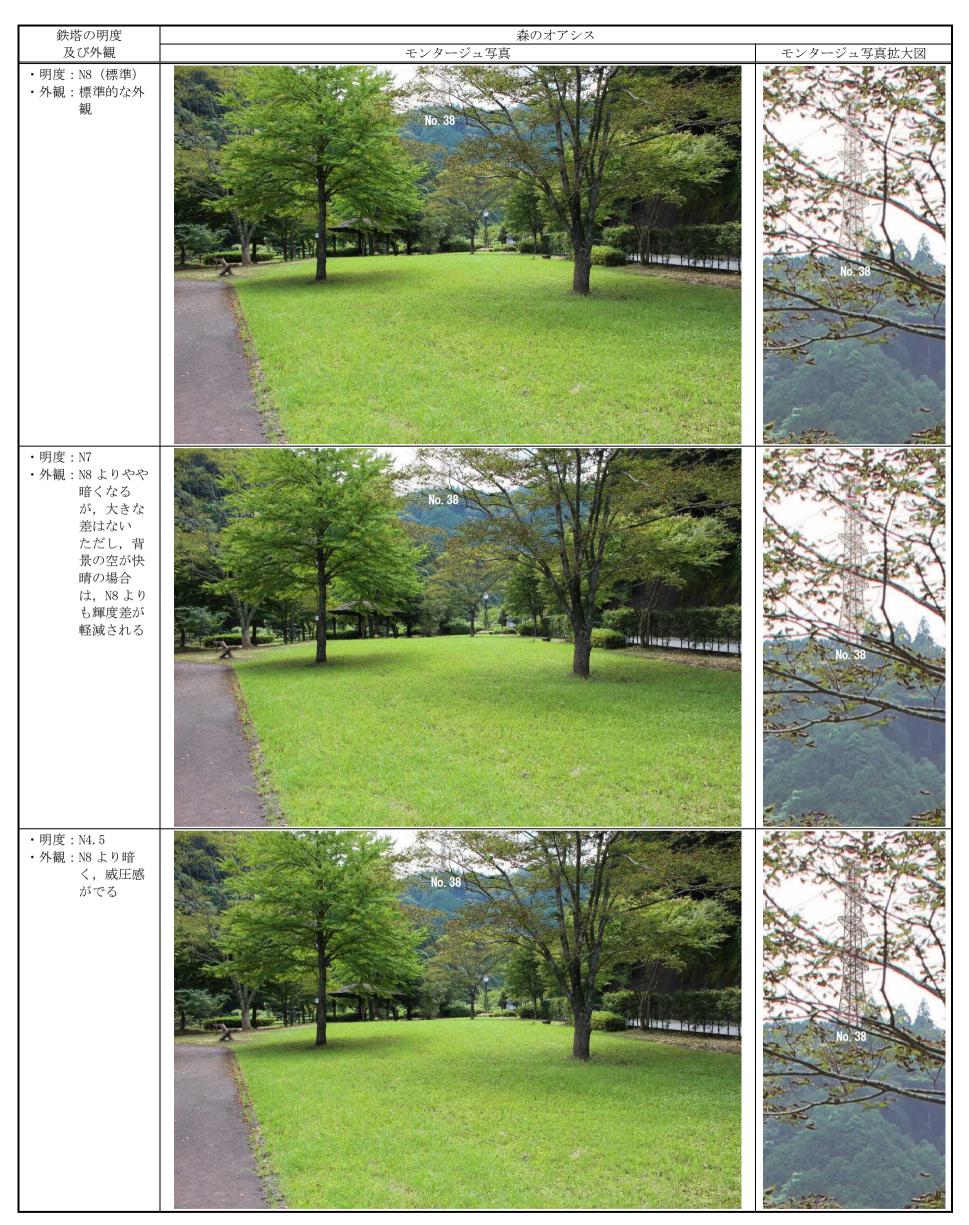


撮影日:2022年8月26日



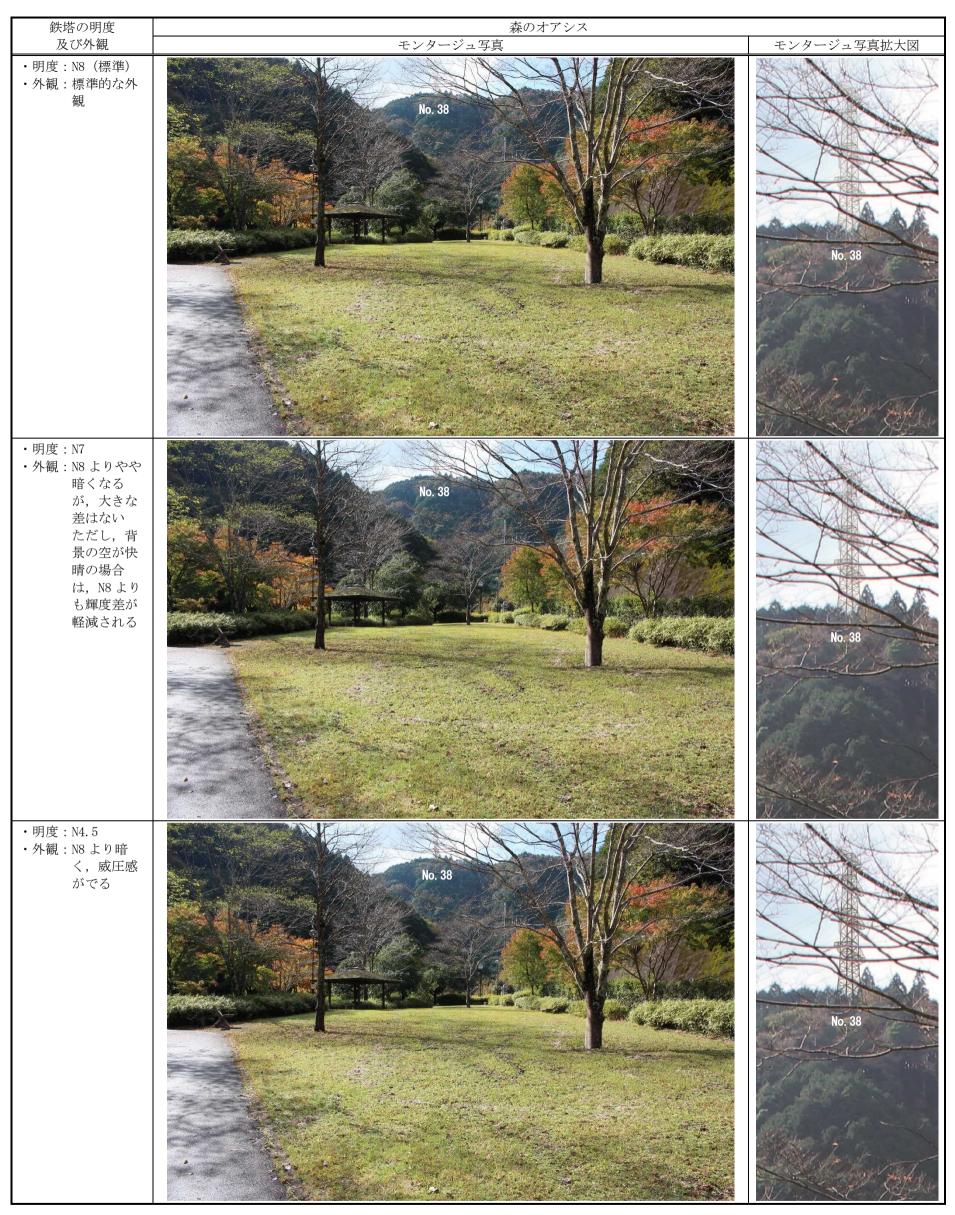


撮影日:2022年11月2日



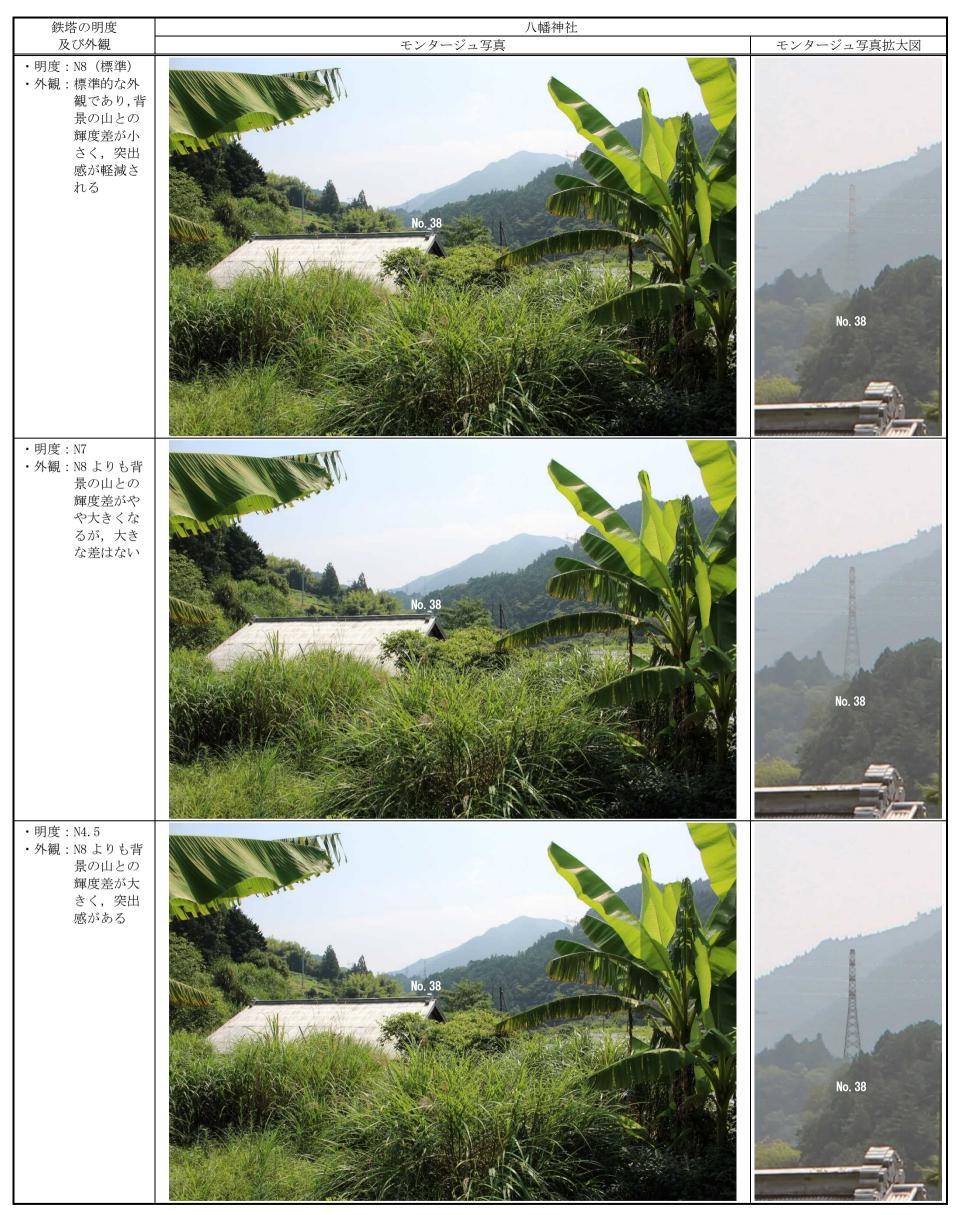


撮影日:2020年8月4日



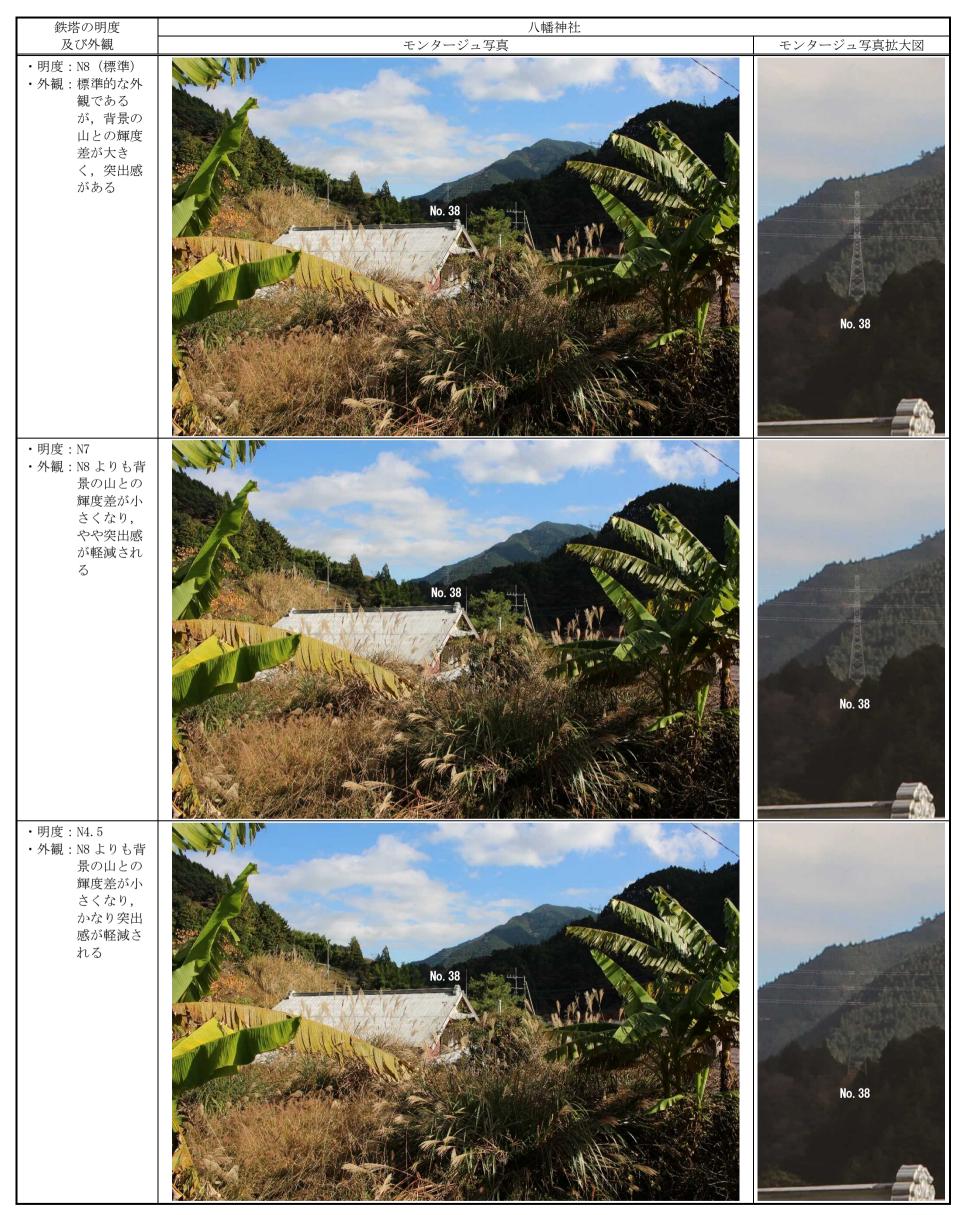


撮影日:2019年11月19日





撮影日:2020年8月9日





撮影日:2019年11月19日

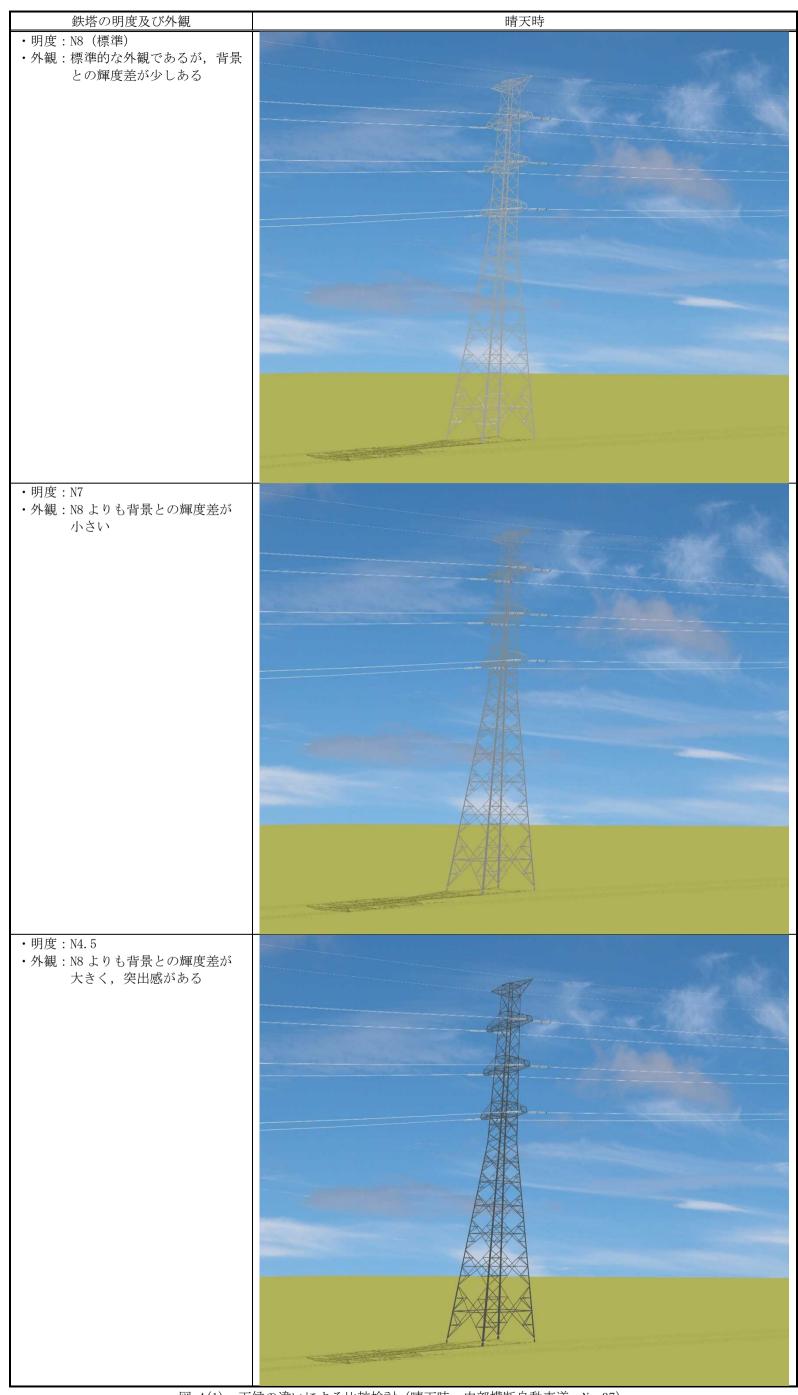


図-4(1) 天候の違いによる比較検討(晴天時:中部横断自動車道; No. 37)

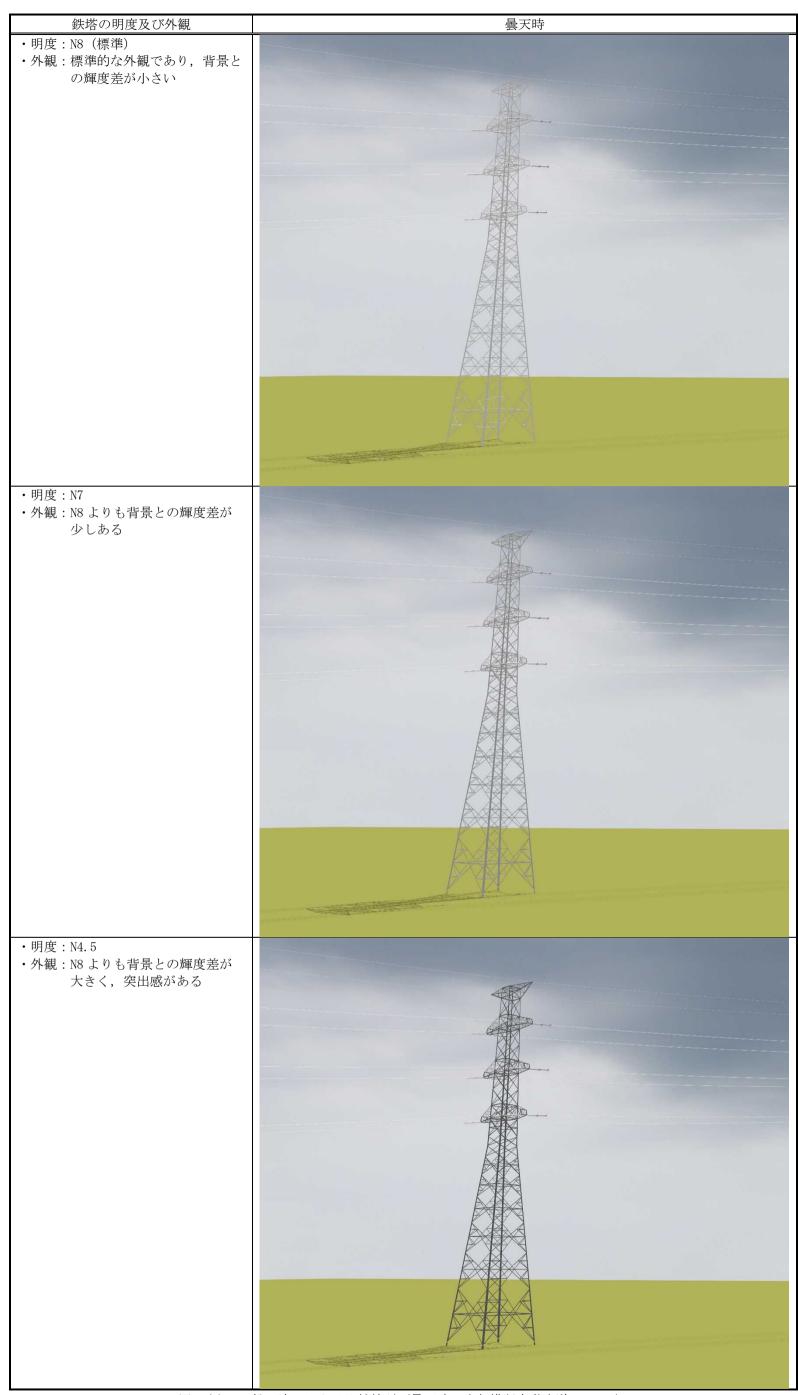


図-4(2) 天候の違いによる比較検討(曇天時:中部横断自動車道; No. 37)

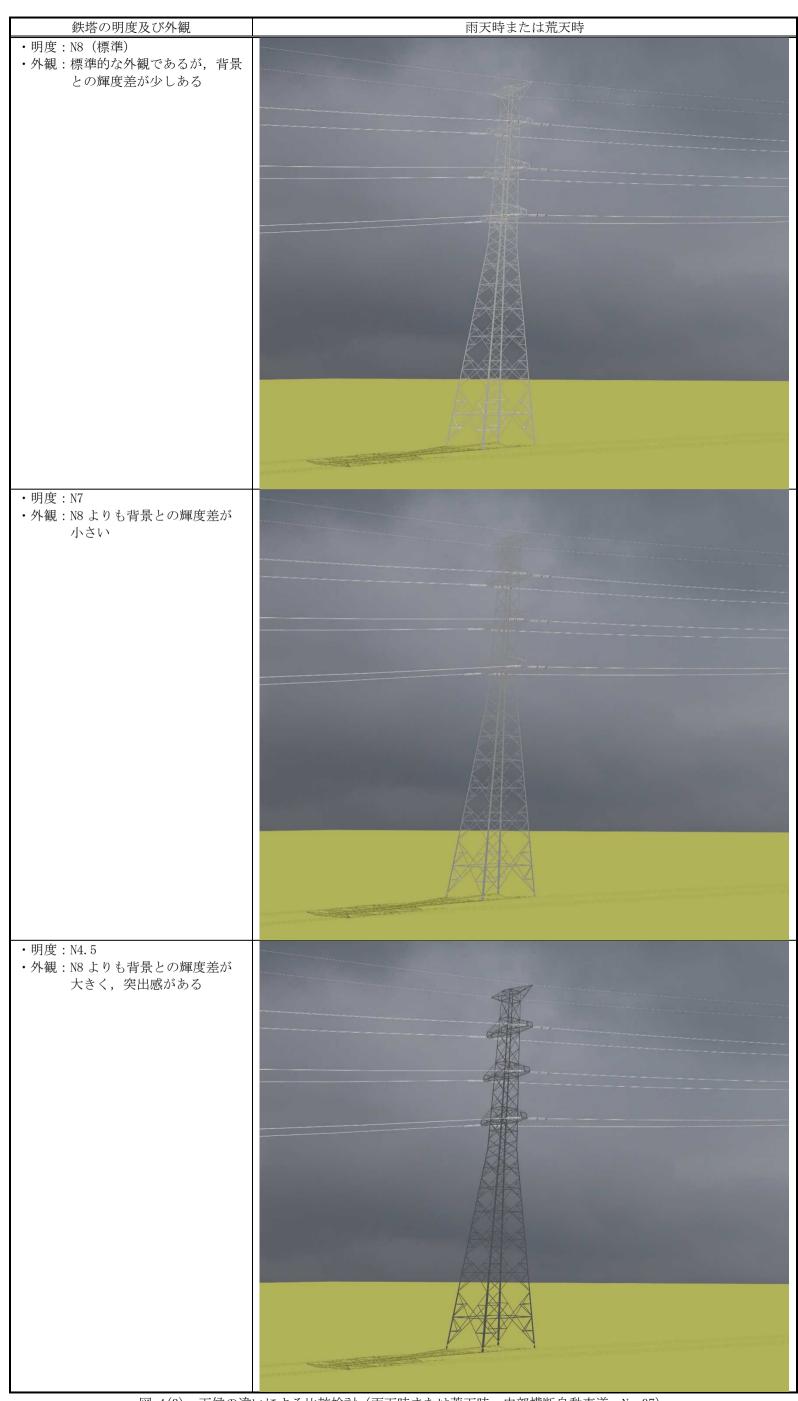


図-4(3) 天候の違いによる比較検討(雨天時または荒天時:中部横断自動車道; No. 37)

### 3. 環境保全措置

「2. 環境保全措置の検討経緯」で季節による違いも考慮して再検討した結果,総合的な評価に変更がなかったことから、補正評価書に記載した環境保全措置の内容に修正はない。

## ○補正評価書における環境保全措置の記載 (8-244 ページ)

### (3) 景観・風景に係る環境保全措置

景観・風景に係る環境保全措置を表 8.5.3-4 に示す。鉄塔の色彩への配慮は、前章の比較検討結果を踏まえ設定した。

表 8.5.3-4 景観・風景に係る環境保全措置

配慮事項	対象鉄	環境保全措置	期待される効果		
11. 11. 11. 11. 11. 11. 11. 11. 11. 11.	塔	措置の内容	種類	別付される別木	
鉄塔の色彩への配慮	No. 36 No. 37 No. 38	明度7程度の亜鉛メッキまたは塗 装を採用する。	最小化	背景との輝度差が 軽減されることで 影響が最小化され る。	
改変に伴う影響への配慮	全基	以下の措置を行う。 ・鉄塔工事用地及び運搬工事用地の伐採面積を必要最小限とする。 ・伐採範囲は、地権者と協議を行い、可能な限り植樹(緑化)を行う。 ・仮設ステージの設置により改変面積を最小化する。 ・建設機械の設置に伴う造成は必要最小限とし、改変面積を最小限とし、改変面積をよいなとし、改変面積をよいにする。 ・工事用道路の設置を必必といる。 ・造成箇所の発生土を再利用し、現況地盤の復旧を行う。	最小化	改変による影響が最小化される。	

### 注)環境保全措置の種類

最小化:ある行為の実施の規模又は程度の制限,若しくは影響を受けた環境を修復,再生あるいは復元することにより環境への影響をできる限り最小化すること。(環境影響を矯正することや軽減することを含む)

## 4. 評価

「2. 環境保全措置の検討経緯」で季節による違いも考慮して再検討した結果,「3. 環境保全措置」の内容に変更がなかったことから,補正評価書に記載した評価に修正はない。

## ○補正評価書における評価の記載 (8-245 ページ)

### 8.5.4 評価

#### (1) 評価の方法

調査及び予測の結果並びに検討した環境保全措置の検討結果を踏まえ、景観・風景に係る環境への影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされているかどうか評価した。

#### (2) 評価の結果

視覚的な変化及び眺望景観の変化が生じるとされた眺望地点から視認される鉄塔について、環境保全措置として、鉄塔の色彩への配慮を行うこととした。また、全鉄塔について伐採面積の最小化、伐採範囲の緑化、仮設ステージ設置による改変面積の最小化、工事用道路設置の最小化、発生土の再利用による現況地盤の復旧等といった影響の最小化を行う。

これらのことから、景観・風景に係る環境保全についての配慮は適正に行われ、事業者の実行可能な範囲で環境への影響ができる限り緩和されていると評価する。